

将来的に、今後の海外合宿・遠征に関わる可能性のある学年での今回のトレッキング参加者として、今回考えたことを述べたい。

今回は、OB会で立てられた計画に現役がついて行くという形での参加であった。ゆえに、ゴンドコロに関する協議以外は、現役による立案への参加はなく、ただただトレッキングに参加した、という以上のことはなかった。今後、現役主体の海外合宿・遠征を考えていく中で、情報の収集・現地エージェントとの協議・高所へ向けてのトレーニング等要する努力は大きなものが必要とされるだろう。しかしこれは、あくまで1からはじめた場合のことであって、計画の内容、現地とのコネ等の条件さえあればもっと短期間で準備はできるだろう。たとえば、今回得られた人脈を活用できれば、パキスタン・カラコルム山域でのある程度の期間を要するトレッキング程度なら、かなり容易に準備はできると思われる。

また、現役が海外へ出ようとするとき、今回も実際そうであったように、もっとも大きな障壁となるのは金銭的な問題だろう。これについては、直接現地エージェントへ交渉を持ちかける、物資の現地調達もしくは事前の郵送等を使い分ける、ポーター・スタッフを減らし人件費を削るなどの努力をする必要がある。しかし、これらの努力を行い、経費を削減したとしても、それへの十分な資金を得るのはなかなか難しい。一昔前とは学生を囲む社会も変化してきた今日、学業を放棄せずに十分な資金を得るのは非常に難しくなっている。結果として、今回もOB会よりの貸付・ゴンドコロ隊への援助に大変助けられた。この場をお借りして、今回支援してくださった皆様に再度お礼申し上げたい。そして次回、海外合宿・遠征への計画が持ち上がったあかつきには、是非とも援助をお願いしたいと思う。

以上のことを含めて、今回トレッキングに参加して、もっとも強く感じたことは、「行ってみなければわからない」ということである。国内の山であっても同様だが、遠くから、もしくは写真で山をいくら眺めていても、いくら文献を読み漁っていても、そのすばらしさ・厳しさ、または計画・準備の難しさ・容易さは、本当の所は理解できない。「行ってみる」ということがいかに大切かということ学んだ。「行ってみれば」どんなことに注意しなければならないのか、何を準備すればいいのか、何は必要ないのか、何が重要で何が無駄な心配なのか…等すべてがわかる。逆に言えば、1度行けば2度目以降ははるかに簡単になる。もし、海外合宿・遠征が部内で定期的なものとして慣例化されれば、例えそれが単なるトレッキングに終わったとしても、それはもっと充実した合宿・遠征の欠くことのできない下準備となるのではないだろうか。最ももったいないのは、その流れが途絶え、海外へ向ける目が失われてしまうことだろうと思う。九大山岳部は長くそうした状態が続いたと聞いている。今回のトレッキングを契機に、そうした状態を脱却できれば、部の活動はもっとバラエティに富んだものとなるだろう。

最後に、以上は、今回トレッキングに参加して見聞きしたことから考えたことである。内容の多くに、ほかの方々の受け売りとなっている箇所が多く含まれているが、それは私

がその方々からお聞きして、自分なりに考えた挙句に、同じところに行き着いた結果であるのでご了承いただきたい。